

## 学位論文要旨

開発途上国におけるウエイスト・ピッカーの社会的排除と教育に関する研究  
～バングラデシュ・クルナ市の事例から～

Research on Social Exclusion and Education of Waste Pickers in Developing  
Countries～Through the Case Study in Khulna City, Bangladesh～

農林共生社会科学専攻

佐藤 秀樹

開発途上国では、ペットボトル、瓶、缶、電池、古新聞や段ボール等を分別・回収し、廃品を扱う仲介業者に売り渡しているウエイスト・ピッカー(ごみ拾い人)というインフォーマル・セクターの人たちがいる。正規の労働雇用の枠が限られている途上国では、ごみ拾いというインフォーマルな職業が手っ取り早く従事して生計を立てることが可能で、経済的に見ても貧困の緩和に大きく寄与している。また、ウエイスト・ピッカーは、有価ごみを分別・回収していることから、地域の資源循環に大きく貢献していると言える。しかし、彼らはごみ拾いという不衛生な職業に従事していることから、住民はウエイスト・ピッカーとの接点をもたがらず、彼らを社会的に排除する傾向がある。

これまでのウエイスト・ピッカーに関する先行研究では、組織化されたウエイスト・ピッカーのグループが地域社会と連携して効率的なごみの分別・回収や経済的な貧困削減に寄与している事例、並びに病気へのリスクに関するものが挙げられる。しかし、彼らの社会的排除を緩和する視点から地域社会と協働した廃棄物管理を行うための具体的なアプローチ方法やその方向性を検討する研究は、十分に行われていないのが現状である。

本論文では、バングラデシュ・クルナ市のウエイスト・ピッカーを対象として、彼らと地域とが連携した廃棄物管理を実現させていくために、彼らの社会的排除の緩和を図ることを目指した能力開発による教育プログラムの枠組みを開発する視点から、下記の4つに関する研究をアクション・リサーチにより検討および考察することを目的とした。

- ① ウエイスト・ピッカー(101人)の現状と組織化および地域社会との関わりの把握、地域と連携した廃棄物管理へ向けた方向性に関する検討。
- ② ウエイスト・ピッカーの労働環境を改善するための衛生教育の教材開発の方向性と教材を活用した研修会(ウエイストピッカー40世帯)による有効性の検証。

- ③ ウェイスト・ピッカーのスタディツアーの開催を通じた社会的包摂を図るためのインパクトに関する検証。
- ④ ウェイスト・ピッカーを地域に巻込んだ環境教育教材の開発と環境教育プログラム実施へ向けた方向性の考察。

研究①では、区の自治会と連携して各家庭のごみ回収を行うウェイスト・ピッカーのグループの存在や、組織化の持続性および透明性の確保の必要性、および廃棄物ビジネス、研修会への期待が明らかとなった。また、彼らのごみ拾いという専門性を活かして、各家庭へのごみ回収、ユニフォームの着用や市が地域社会と連携してごみを中心とした環境教育の活動を行うことへの要望が明確となった。

研究②では、視覚教材開発や体験学習を通じて、ごみ、安全管理、健康の視点から、彼らの生活環境やメンタルケアを含めた教育の重要性が認識された。また、ポスターやフリップカードといった2種類の衛生教育教材を使用した研修会では、クルナ市で実際に働くウェイスト・ピッカーの写真入り視覚教材の活用や、彼らとの積極的な対話づくりのプラットフォームを構築しながら研修での発表、議論および実習の中で参加型およびインタラクティブのアプローチ方法を導入することによって、彼らの学びの効果がより一層高まることが明らかとなった。

研究③では、スタディツアーにより、ウェイスト・ピッカーや廃棄物管理に関わる地域社会を相互に学ぶことにより、彼らの労働環境とライフスタイルの共通点や相違点に関し、ウェイスト・ピッカー同士でのコミュニケーションの促進と関係者の理解を深めることができた。クルナ市のウェイスト・ピッカーがラッシュアイ市のウェイスト・ピッカーを対象とした衛生教育研修は、廃棄物管理の関係者におけるウェイスト・ピッカーの存在意義を高めると共に、彼らに地域社会における権限を与える一助となり、社会の一員として認められるための自信を持たせることにつながった。市の廃棄物管理全てを管轄している市役所を巻込むことは、社会におけるウェイスト・ピッカーの役割を理解させ、彼らの社会コミュニケーションの促進と社会的排除を緩和していくための一つのステップとなることを検証することができた。

研究④では、ウェイスト・ピッカーを地域の廃棄物管理へ巻込むために、彼らの役割や労働を意識したものであると同時に、生徒が学校や地域社会でごみの適切な管理を行うための技能を身につける環境教育の教材内容として、ブレンストーミングステージ(クイズ付フリップカード)、楽しく学習するステージ(カルタ、ボードゲーム)、アクションプランステージ(アクションプランシート)の開発と普及啓発が、一つの学習教材とプログラムとして考案された。そして、定期的に学校で活用するための仕組みづくりを行うことや、家庭および地域住民を含めて廃棄物管理の環境教育を実施していくことで、その相乗効果が高まっていくものと考えられた。

以上を踏まえ、ウェイスト・ピッカーと地域とが連携した廃棄物管理を実現させ、彼らの社会的排除の緩和を図ることを目指した教育プログラムの枠組みの一つとして、「(1)現状把握調査」、「(2)組織化へ向けた取組み」、「(3)衛生教育の実施」、「(4)スタディツアーの開催」、「(5)環境教育の普及啓発活動」、「(6)地域社会と連携した生計向上を図るための取組み」のステップで行うことを提言したい。これらの能力開発を行うためには、地域社会全体の廃棄物管理に関わるエンパワーメントを高めるための住民に対するごみ教育や、市役所が学校の教師、自治会、NGO等と連携してウェイスト・ピッカーを含む廃棄物管理の教育を担うリーダーやコーディネーターを養成することが必要と言える。